

064-EMD	01	02版
2007年 6月 4日作成		

株式会社 林環境

環境活動レポート

2006年度版

目次

1. まえがき	P3
2. 会社概要	P3
3. 運用組織	P3
4. 環境への負荷実績及び取組状況	P4
5. 環境方針	P7
6. 環境目標・環境活動計画とその達成状況	P7
7. 環境活動の取組結果に対する評価	P13
8. 環境関連法規の遵守状況	P14

1. まえがき

当社は、一般廃棄物の収集・運搬(ゴミ・浄化槽清掃)や貯水槽、給水・排水管の維持管理清掃などを事業としております。「環境に優しい企業づくり」を目標に、地球温暖化対策や循環型社会への取組を行なっていきます。

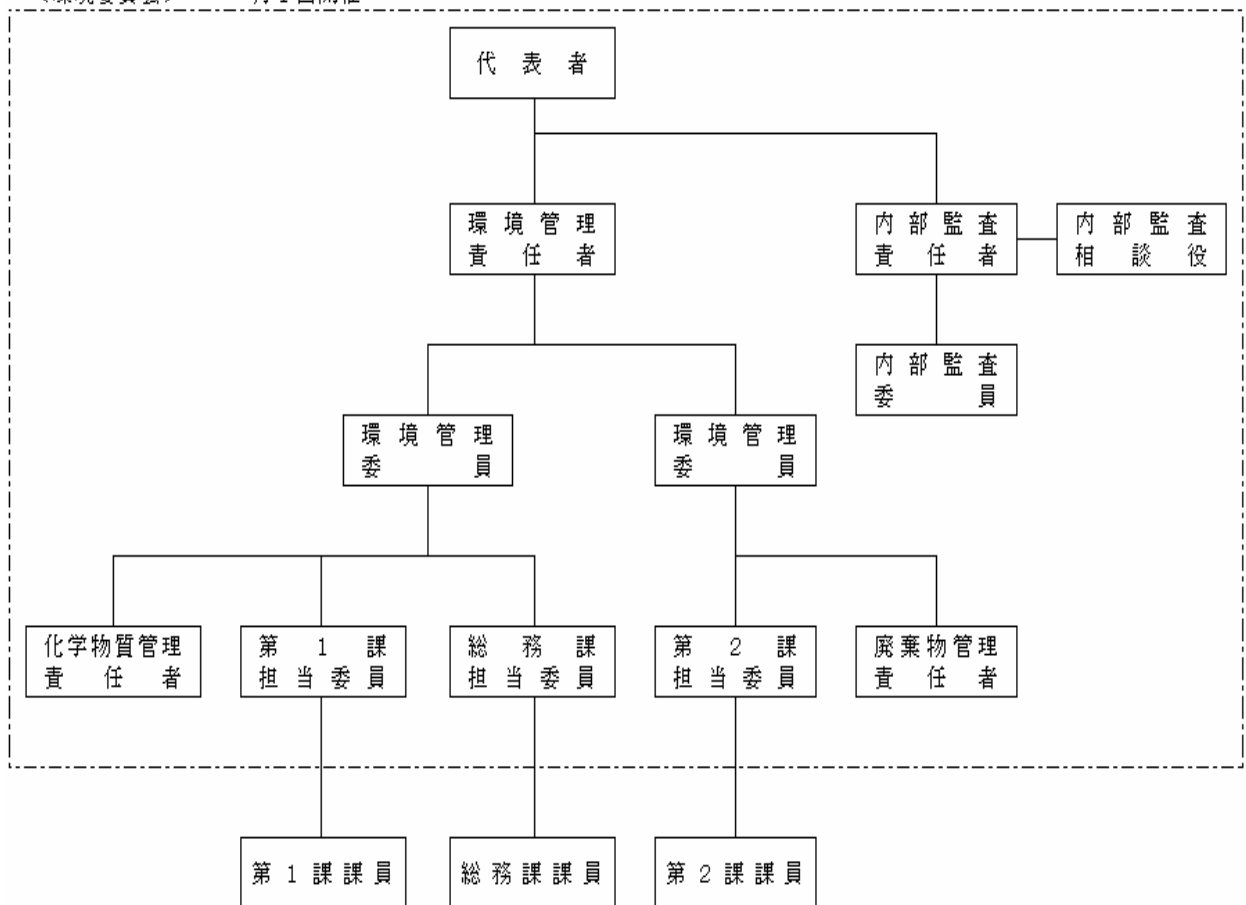
2. 会社概要

会社名 : 株式会社 林環境
所在地 : 群馬県桐生市東7丁目5番30号
代表者 : 代表取締役 林 整
環境管理責任者 : (正)林 竹志、(副)林 万見子
TEL : 0277-44-6320
設立 : 昭和23年1月7日
資本金 : 1,000万円
業種 : 一般廃棄物収集運搬業、浄化槽管理・清掃業及びビルメンテナンス業
従業員数 : 27人

3. 運用組織

㈱林環境 環境経営システム運用組織

<環境委員会> : 月1回開催

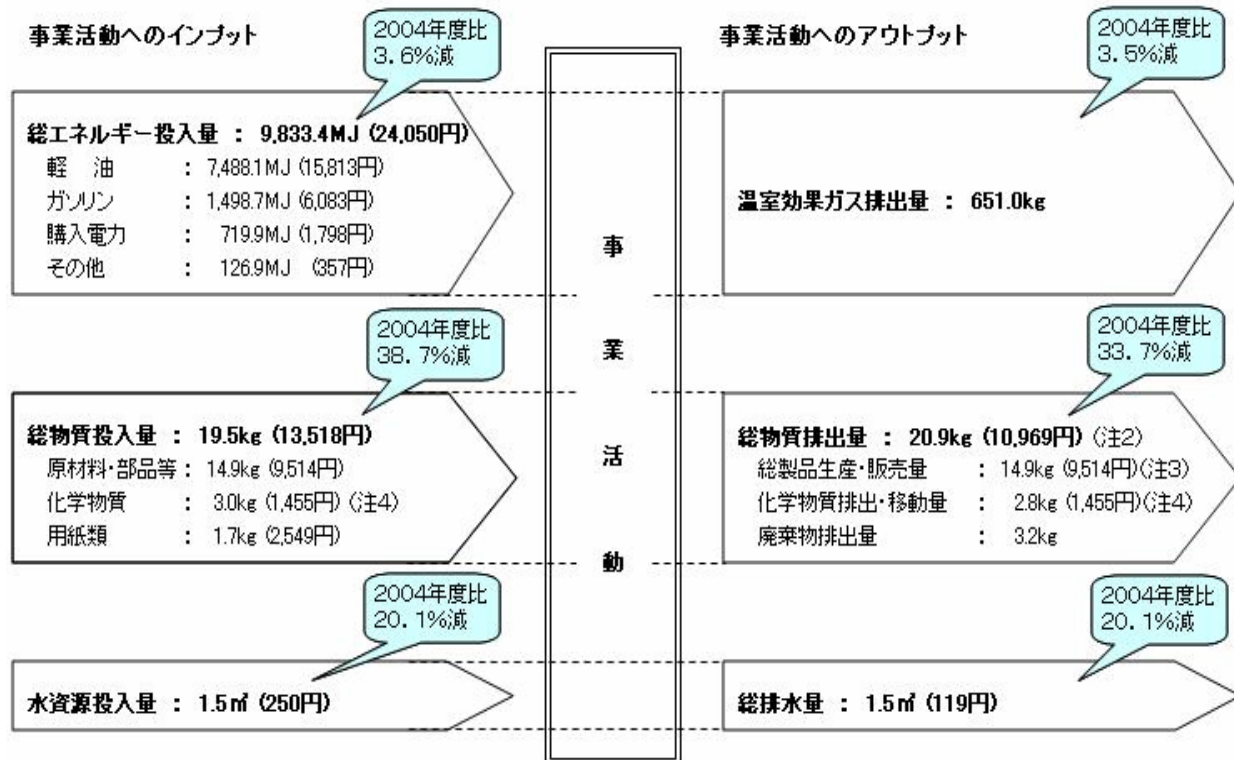


4. 環境への負荷実績及び取組状況

4.1 環境への負荷実績

2006年度の環境への負荷実績及び各指標の3年間の推移を以下に示しました。

2006年度 環境への負荷実績



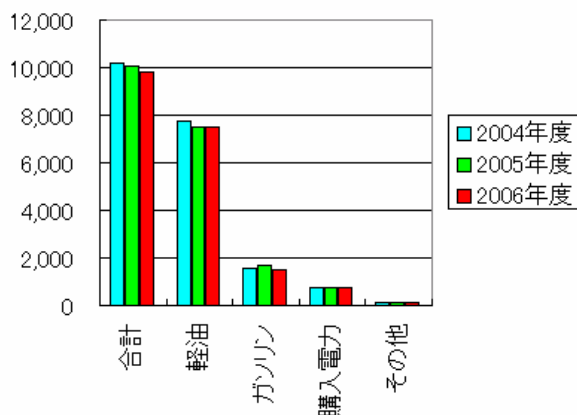
注1： 図中の数値、金額は売上高100万円当たりのものです。また、カッコ内の金額はそこに使われた費用を表しています。

注2： 総物質排出量には、廃棄物として排出される用紙類以外の用紙類は含まれていません。

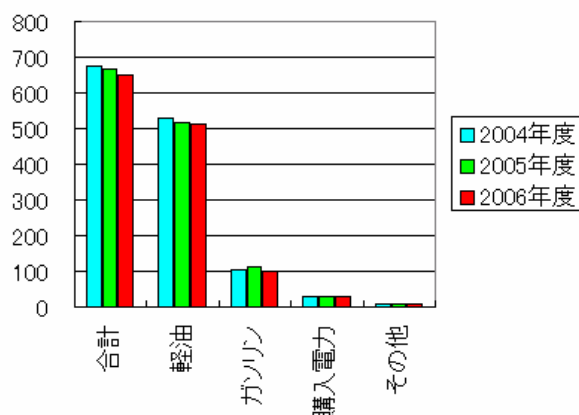
注3： 総物質投入量の原材料・部品等の重量を、そのまま総物質排出量の総製品生産・販売量の重量としています。

注4： 浄化槽点検以外に使用している化学物質は含まれていません。

総エネルギー投入量[MJ/百万円]



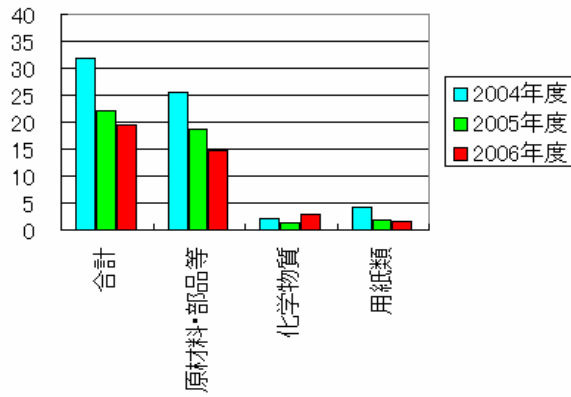
温室効果ガス排出量[kg/百万円]



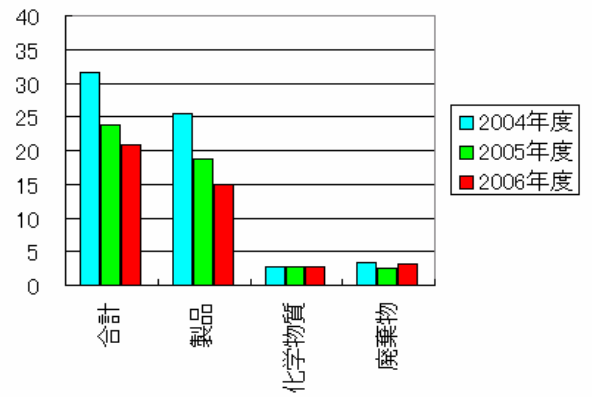
	2004年度	2005年度	2006年度
合計	10,200.8	10,084.6	9,833.3
軽油	7,727.9	7,492.0	7,488.1
ガソリン	1,576.4	1,687.8	1,498.6
購入電力	759.3	770.9	719.8
その他	137.2	134.0	126.8

	2004年度	2005年度	2006年度
合計	674.8	666.4	651.0
軽油	530.9	514.7	514.4
ガソリン	105.8	113.2	100.6
購入電力	29.2	29.6	27.7
その他	8.9	8.8	8.3

総物質投入量[kg/百万円]



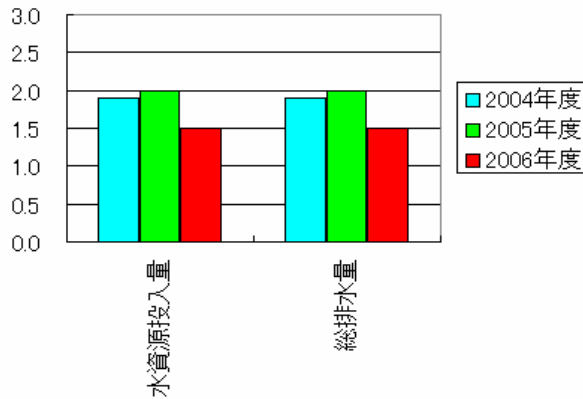
総物質排出量[kg/百万円]



	2004年度	2005年度	2006年度
合計	31.8	22.0	19.4
原材料・部品等	25.4	18.7	14.8
化学物質	2.1	1.4	2.9
用紙類	4.3	1.9	1.7

	2004年度	2005年度	2006年度
合計	31.6	23.8	20.9
製品	25.4	18.7	14.8
化学物質	2.7	2.7	2.8
廃棄物	3.4	2.5	3.2

水資源投入・排水量[m³/百万円]

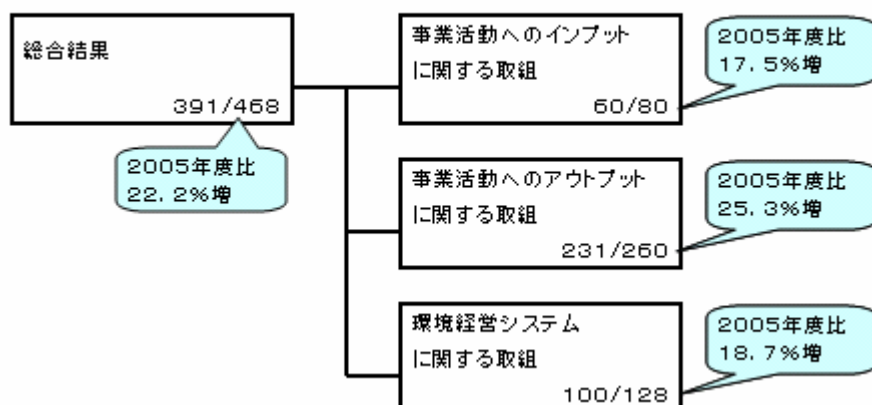


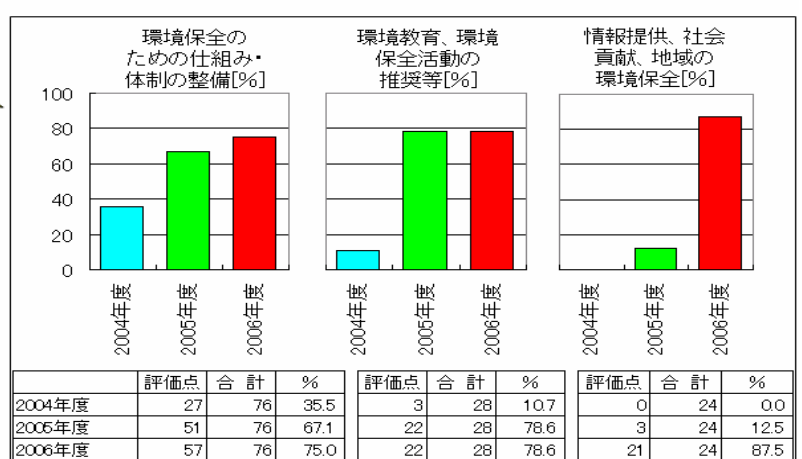
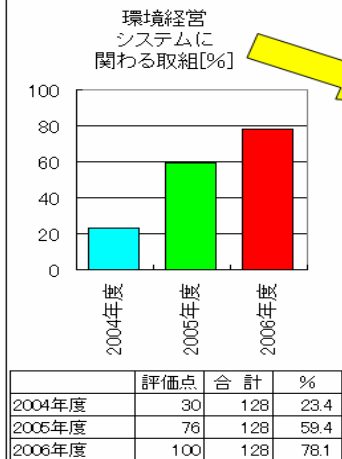
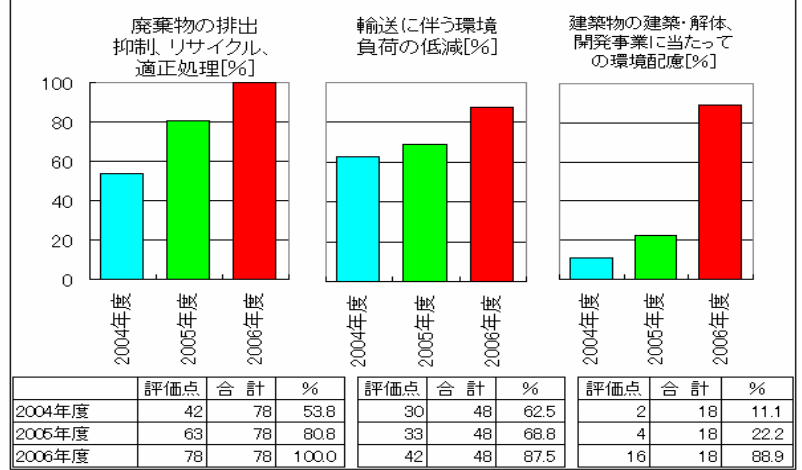
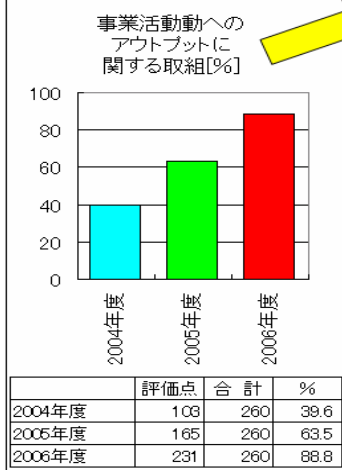
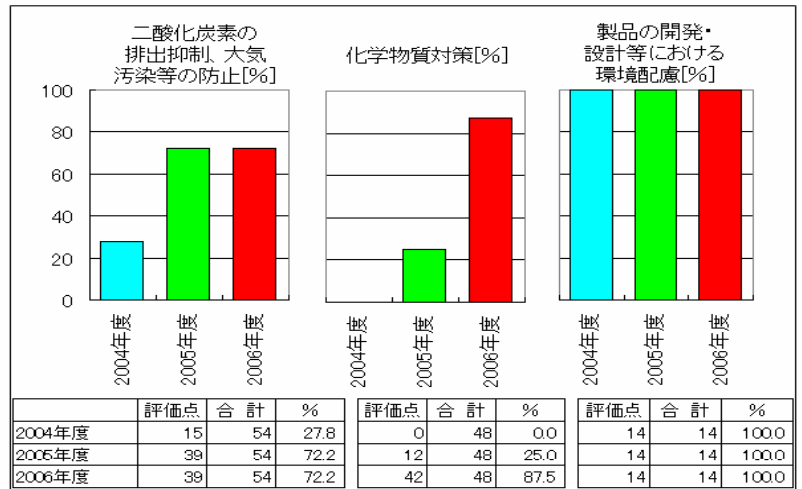
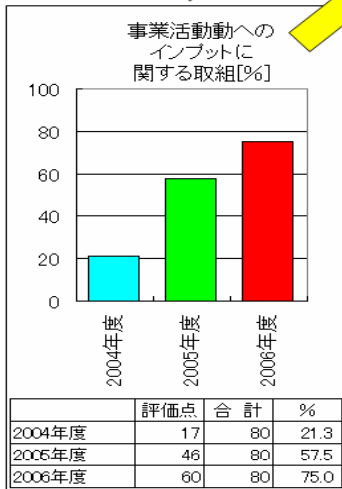
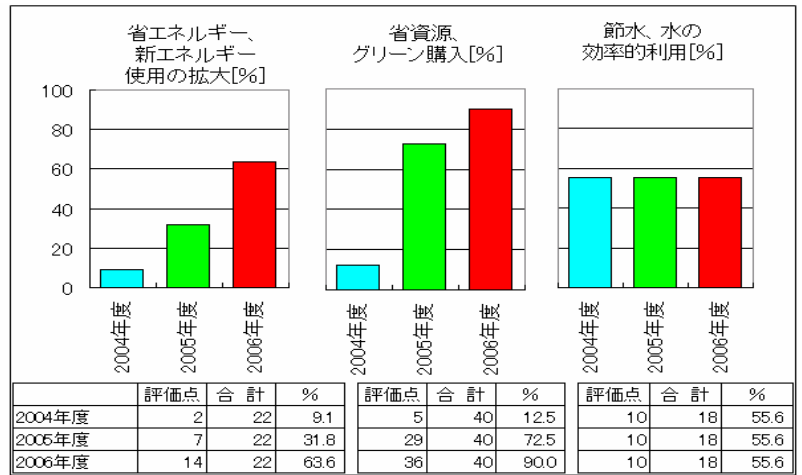
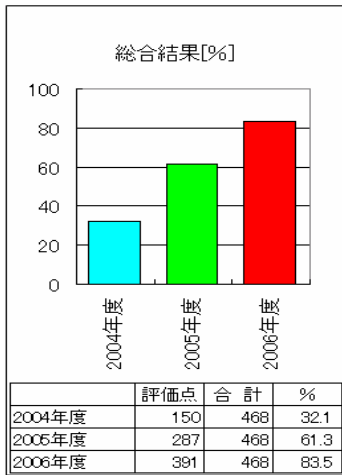
	2004年度	2005年度	2006年度
水資源投入量	1.9	2.0	1.5
総排水量	1.9	2.0	1.5

4.2 環境への取組状況

2006年度の環境への取組状況及び各取組項目の3年間の推移を以下に示しました。

2006年度 環境への取組状況





5. 環境方針

当社では、2005年度の環境への負荷実績および取組状況の結果から、2005年度に掲げた環境方針をそのまま継続し、日常生活における環境保全活動や全社員への環境教育などの更なる向上を図り、地域社会の発展に貢献することを目指すこととしました。

<p>—株式会社 林環境—</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">環 境 方 針</div>
<p>1. 地球温暖化・大気汚染を防止するため、輸送の効率化、エコドライブの実践を推進し、環境保全のための継続的な改善を図ります。</p> <p>1. 当社の活動が環境に及ぼす要素・要因について影響評価を行なった結果をもとに環境汚染の予防・改善の実現に努める。</p> <p>1. 環境関連の法律・省令・条例その他要求事項を遵守するとともに、自主規制・業務手順を整備し、技術的・経済的に可能な範囲で環境マネジメントの継続的改善に努力する。</p> <p>1. この環境方針達成のため、各課毎に環境目的・目標を設定し全構成員で環境マネジメントプログラムを実行する。</p>
<p>—この環境方針は、社外の人にも公開します—</p> <p>2005年3月3日</p> <p style="text-align: center;">株式会社 林 環境</p> <p style="text-align: right;">代表取締役社長 林 整</p>

6. 環境目標・環境活動計画とその達成状況

6.1 軽油・ガソリンの使用量の把握と消費低減

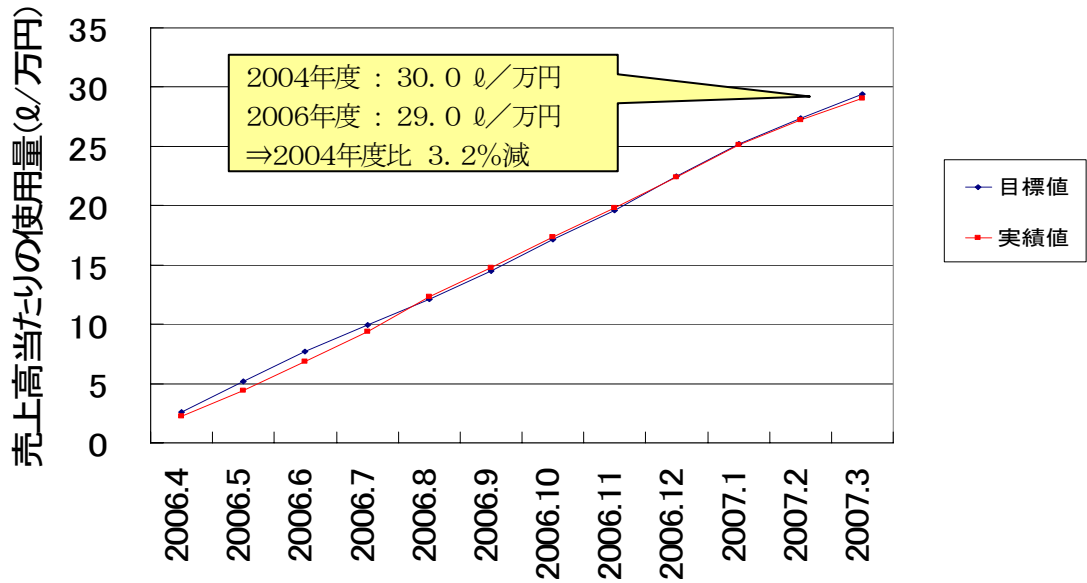
総エネルギー投入量の中で割合が高い軽油・ガソリンの使用量を2004年度比で2%削減することを目標として、2005年度の活動項目である以下の5項目をさらに徹底していくこととしました。その取組結果は次頁のグラフのように、2004年度比で3.2%減少して目標を達成することが出来ました。これは、各取組の効果が現れたことや、特殊な理由から2台のガソリン車の使用が1～2ヶ月なかったことにより使用量が大きく減少したためと思われます。

- (1) エコドライブ及びアイドリングストップの推進
- (2) 作業に関する走行ルートの見直し
- (3) 車両に合わせた収集コースの再選定
- (4) 各車両の連絡網の充実化(無線機など)による、環境に配慮した運行の推進
- (5) 車両毎の使用量の把握

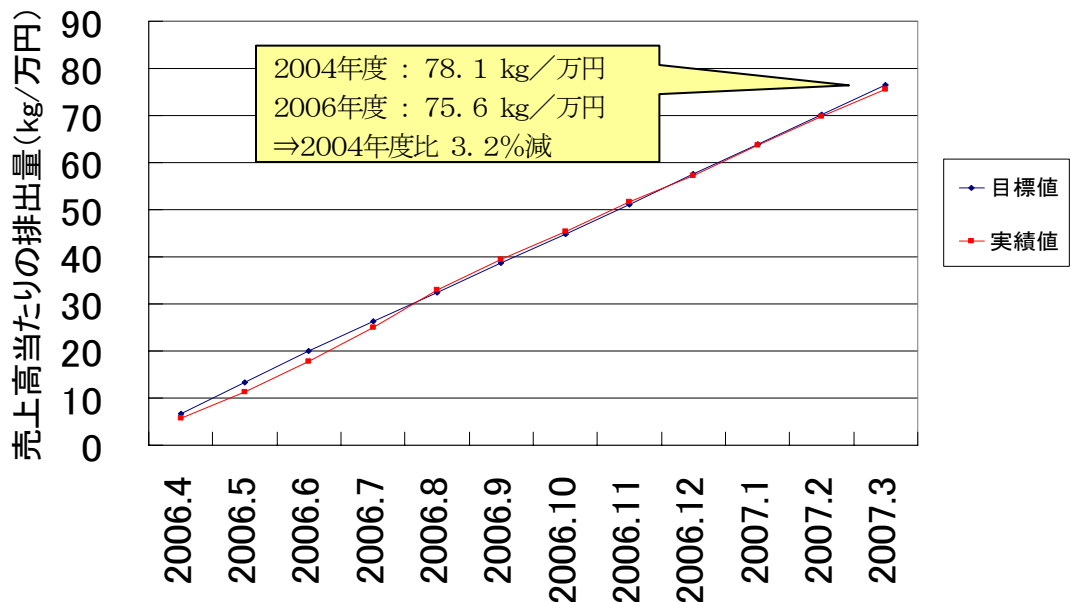
また、この軽油・ガソリンの使用量の削減を通じて、車両から排出される排気ガスに対しても同様に2004年度比2%削減することを目標としました。その取組結果は次頁のグラフのように、軽油・ガソリンの使用量と同様に、2004年度比で3.2%減少して目標を達成出来ました。

上記の取組(1)、(5)の結果として、車両の燃費を課別・車両クラス別に次頁のグラフにまとめました。

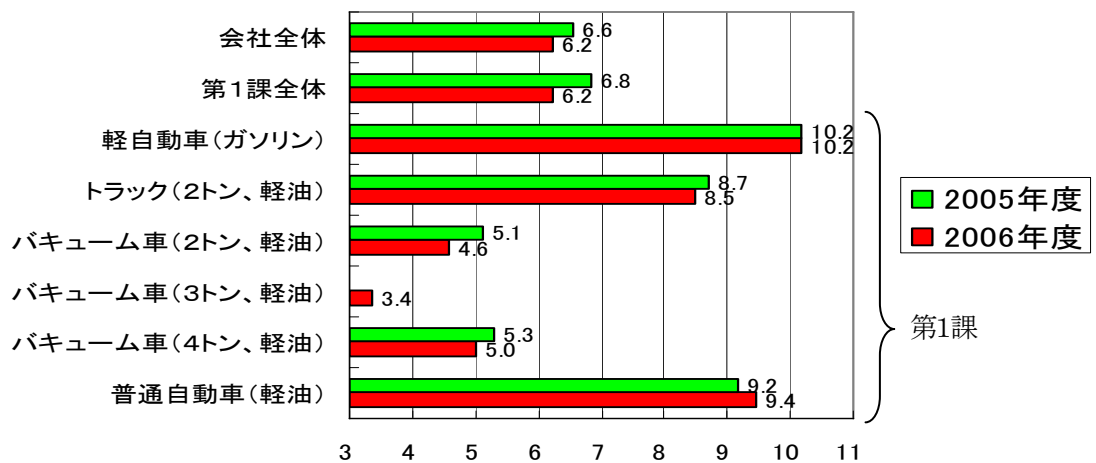
軽油・ガソリンの使用量



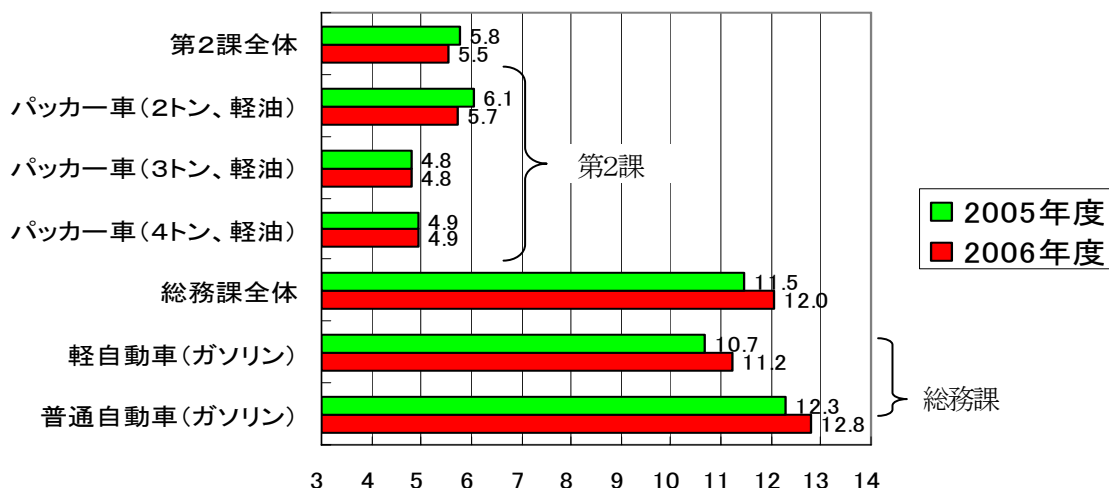
車両から排出される排気ガス量



車両燃費(会社全体・第1課) [km/ℓ]



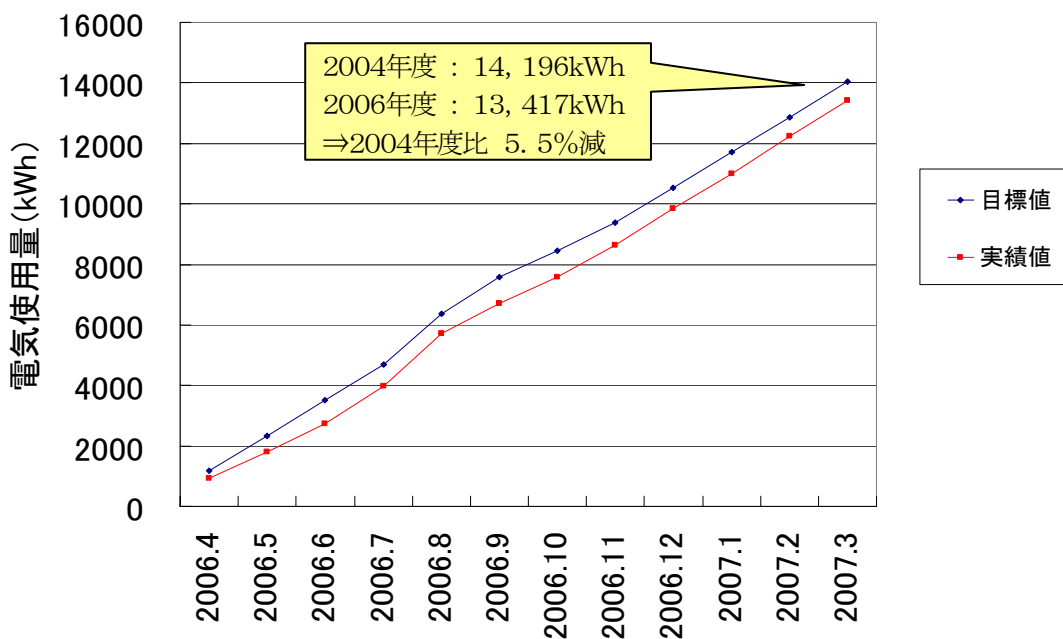
車両燃費(第2課・総務課)[km/ℓ]



6.2 電気使用量の削減

電気使用量について、2004年度比1%削減することを目標として、2005年度と同様に、クーラーの冷暖房温度の設定や、未使用場所の消灯等の節電をさらに徹底することになりました。その取組結果を下のグラフに示しましたが、2004年度比で5.5%の削減ができており、目標を達成出来ました。昨年度より冬の寒さが厳しくなかったことにより、暖房に使う電気使用量を抑えられたのが目標達成に大きく貢献しました。

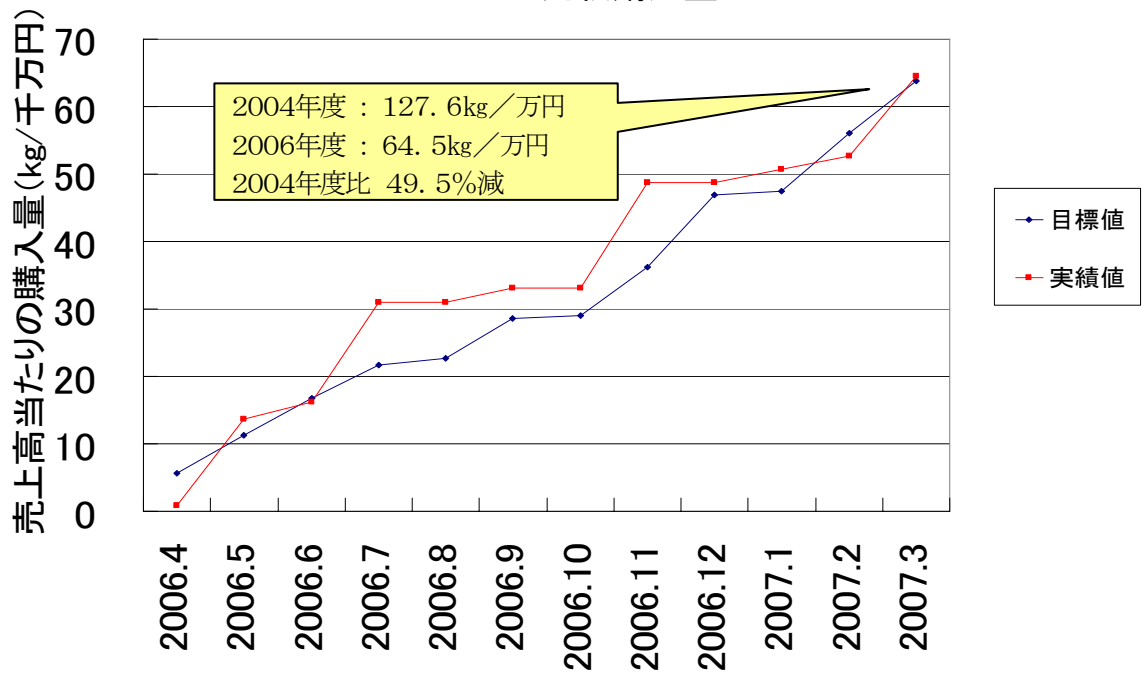
電気使用量



6.3 コピー用紙の使用量

パソコンによるペーパーレス化や両面コピーの促進により、コピー用紙の使用量を2004年度比で50%削減することを目標とし、その取組結果を次頁のグラフに示しました。尚、使用量の把握が難しいため、コピー用紙の購入量で示しています。その結果、2004年度比で49.5%の削減となり、目標値にわずかに達していないものの、5ページの総物質投入量のグラフから、2005年度よりもさらに削減は進んでいることが分かります。

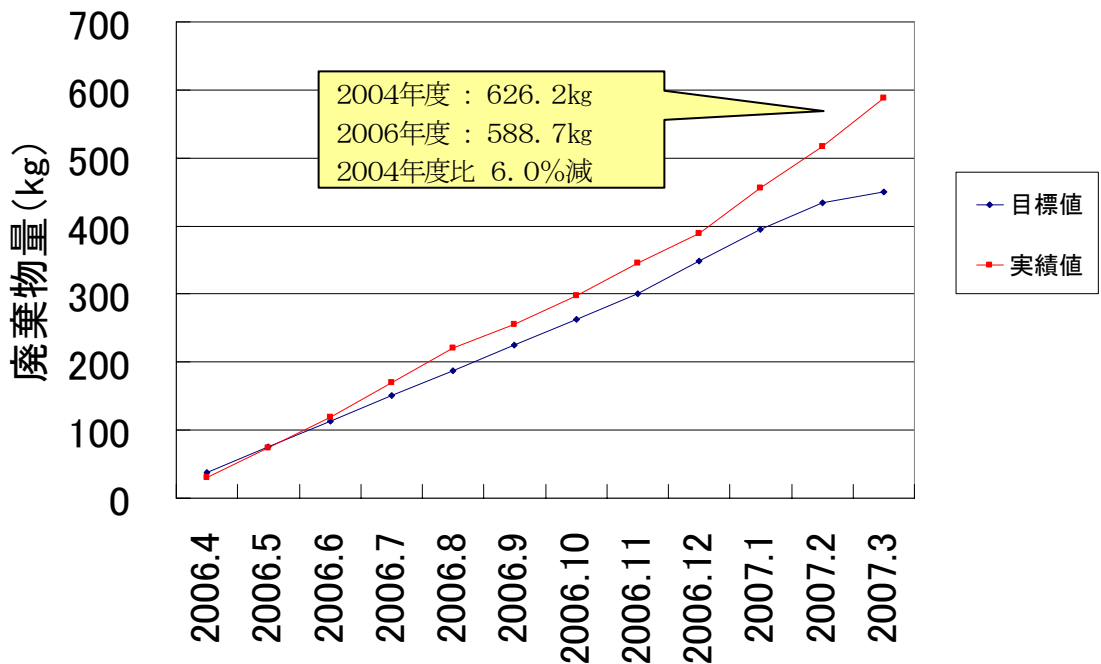
コピー用紙購入量



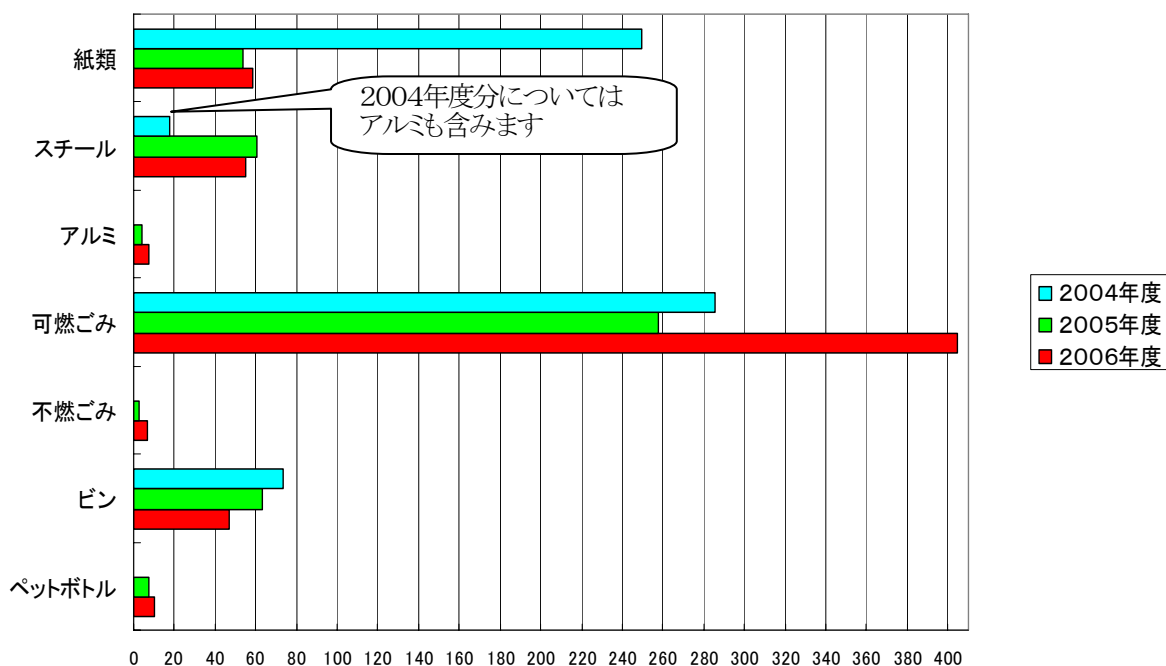
6.4 廃棄物の削減

廃棄物の総排出量を2004年度比で28%削減することを目標とするとともに、廃棄物の分別及びリサイクルの徹底を推進しました。その取組結果として、廃棄物の排出量を下のグラフに、また、各廃棄物の排出量を次頁のグラフに示しました。廃棄物の排出量は2004年度比で6.0%削減されましたが、目標値に達せず、さらに、2005年度よりも増加しています。また、上半期終了時点で、紙類が可燃ごみの方に混ざっていることが分かり、その後、各廃棄物の分別をさらに徹底して取組んでいます。

廃棄物量



各廃棄物の排出量[kg]



廃棄物の分別・リサイクル方法

- (1) 紙類(シュレツダー処理された紙を除く) → 当社指定のリサイクル業者へ … リサイクル
- (2) 缶(スチール) → ゴミステーションへ … 桐生広域清掃センター(以下、広域センター)でリサイクル
- (3) 缶(アルミ) → 当社指定のリサイクル業者へ … リサイクル
- (4) 可燃ごみ(シュレツダー処理された紙を含む) → 広域センターへ … 発電に利用
- (5) 不燃ごみ → 広域センターへ … リサイクル又は埋立
- (6) ビン → 広域センターへ … リサイクル又は埋立
- (7) ペットボトル → ゴミステーションへ … 広域センターでリサイクル
- (8) 蛍光灯・電球 → 広域センター … リサイクル
- (9) 乾電池(市民一斉清掃の時に回収) → 清掃管理事務所へ

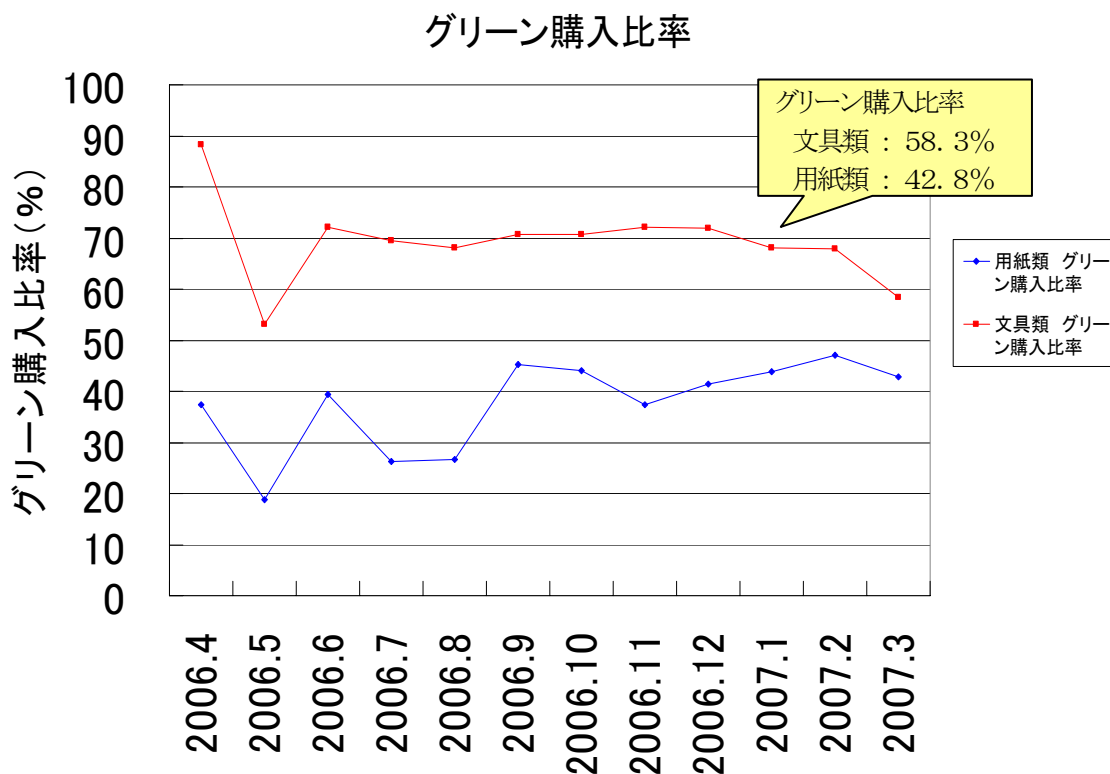
6.5 化学物質等の管理

浄化槽管理で使用する化学物質を専用ロッカーに保管し、責任者による管理体制下で保管・使用状況等の管理を行っています。その管理結果を以下に示します。

	日付	pH 指示薬	DPD 指示薬	GR 試薬	硝酸銀	クロム酸 カリウム	消毒剤 (浄化槽)
保 管 量	2006/3/28	500ml	50g	60g	4ℓ	1,500g	53.2kg
移 動 量	-	1,000ml	250g	20g	10ℓ	500g	510.2kg
購 入 量	-	2,500ml	350g	0g	6ℓ	0g	675.0kg
保 管 量	2007/3/30	2,000ml	150g	40g	0ℓ	1,000g	218.0kg

6.6 環境に配慮した物品等の調達及び備品等の管理

在庫管理を行うための在庫リストや調達を行う際の基準を定める基準リストを作成し、それらに基づいて環境に配慮した物品等の調達を進め、文具類と用紙類のグリーン購入比率の目標をそれぞれ25%、15%としました。これらの取組により、下のグラフのように、文具類、用紙類ともに目標を達成出来ました。



6.7 飲料水の捨水量の低減

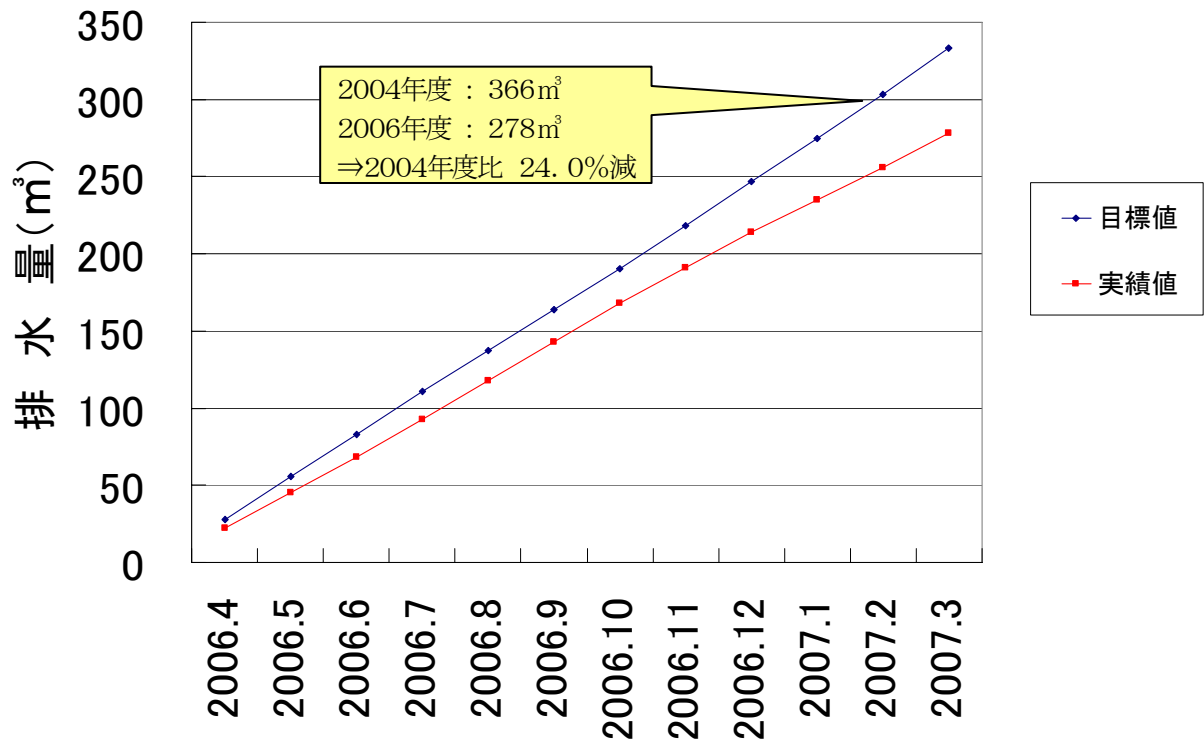
飲料水貯水槽清掃(2槽式)において、給水バルブの事前閉栓などに取り組むことにより、貯水槽からの捨水量を減らすことを推進してきました。その結果、2006年度の1年間で156.7m³の飲料水を節約できました。

6.8 排水量の低減

当社で使用する水の使用量を2004年度比9%削減することを目標として、2005年度と同様に、以下の5つの活動項目を実施・徹底していくこととしました。その取組結果を次頁のグラフに示しましたが、目標よりも大きく低減できました。取組(2)の洗濯の回数を必要最小限に抑えられたことが特に効果があったと思われます。

- (1) バキューム車の水処理センター内の洗車場での洗車
- (2) 作業用手袋等をまとめて洗濯
- (3) 漏れたオイル等の排水防止
- (4) カップ等を洗うときの節水
- (5) 夏場のポットの使用個数削減

排水量



7. 環境活動の取組状況に対する評価

7.1 各四半期毎の取組状況に対する評価

(1) 第1四半期(2006年4月～2006年6月)までの取組状況に対する評価

廃棄物の排出量が目標をやや上回りましたが、全体的には順調なスタートと言えると思います。夏の暑い日が続き、エネルギーや資源の使用量が増えていくと思いますが、全員で協力して環境に優しい取組を進めていきましょう。

(2) 第2四半期(2006年7月～2006年9月)までの取組状況に対する評価

目標を上回っている項目がいくつか見られ、まず、燃料消費量及び排気ガス量については、前年度と同様に8・9月の燃料消費量が多くなっていることから、やや目標値を上回っています。また、コピー用紙の購入量については、購入の時期により目標値を上回ることもあるので、経過を見守っていきたいと思います。ただ、可燃ごみの増加により、廃棄物の排出量が目標値をかなり上回っているため、対策が必要です。

(3) 第3四半期(2006年10月～2006年12月)までの取組状況に対する評価

第2四半期において目標を上回っていた4項目のうち、燃料消費量及び排気ガス量が、目標値を下回り、良い結果が得られています。コピー用紙の購入量については、目標を上回っていますが、目標値に近づいていることから、経過を見守りたいと思います。廃棄物の排出量については、前回の結果を受けて、分別・リサイクルの徹底を全員で再確認しましたが、さらに削減につながる情報を収集していきたいです。

(4) 第4四半期(2006年1月～2006年3月)までの取組状況に対する評価

廃棄物の排出量を除く各項目について、目標を達成もしくは目標に近い実績が得られました。これは、一人一人の活動への取組が前年度よりも良くなったことによる全員で出した結果であると思います。これをさらに継続・発展していけるよう来年度もよろしくお願いします。また、目標を達成できなかった廃棄物の排出量については、前年度のものが少なすぎたようでもあるので、目標値を再検討し、あらためて取り組んでいく必要があると思います。

7.2 内部監査結果

(1) 第1回内部監査結果(2006年7月26日実施)

エコアクション21について、社員全員が普段から意識があり、その結果が各環境目標の達成につながっていると思います。大変良いことだと思います。

不適合項目 … 無し
要改善事項 … 無し

※特筆事項

環境目標の設定について、社員全員の協力で目標が達成されている項目が多く、大変良かったと思います。

(2) 第2回内部監査結果(2006年11月30日実施)

企業も環境問題に対する取組みが盛んに行われています。私達も全員参加のエコアクション21運動が定着を増し、大変良いことだと思います。

不適合項目 … 無し
要改善事項 … 軽油の消費量について(2課)
清掃管理事務所の指導により、積載量の厳守のため、収集台数が増え、
軽油の使用量が増えました。

※特筆事項

新たな人が色々な責任をまかされて、全員参加のエコアクション21運動が定着してきました。

(3) 第3回内部監査結果(2007年3月26日実施)

認証・登録を受けてから約1年がたちます。普段の社員一人一人の取組姿勢が環境目標の結果によく現れています。その結果を維持していく為にもエコアクション21の基本となる勉強会を行ってはどうでしょうか。

不適合項目 … 無し
要改善事項 … 無し

※特筆事項

環境目標が達成されていない項目も有りますが普段の努力は良く認識しています。さらに目標達成の為の努力をお願いします。

7.3 代表者による全体の評価と見直しの結果

(1) 第1回代表者による全体の評価と見直しの結果(2006年11月16日実施)

- 環境方針の変更の必要性 : 無し
- 環境目標の変更の必要性 : ①軽油・ガソリンの使用量の把握と消費低減
 - ①エコドライブ推進の為、デジタルタコグラフの導入を検討
⇒導入に向けて検討中
 - ①3t車の導入による輸送効率の向上(バキューム車)
⇒3t車を導入しました。
- ②廃棄物の削減
 - ①廃棄物の分別化の徹底
⇒社員研修のときに徹底を指示しました。
- 環境経営システムその他の要素の変更の必要性 : 無し
- 社長の指示・指摘事項 : 無し

(2) 第2回代表者による全体の評価と見直しの結果(2007年6月4日実施)

- 環境方針の変更の必要性 : 無し
- 環境目標の変更の必要性 : 無し
- 環境経営システムその他の要素の変更の必要性 : 無し
- 社長の指示・指摘事項 : 無し

8. 環境関連法規の遵守状況

(1) 第1回環境関連法規の遵守状況の確認の結果(2006年10月6日実施)

- 法律違反の有無 : 営業報告書及び事業実績書の未提出(貨物自動車運送事業報告規則 第2条)
⇒2006年10月23日に提出しました。
- 訴訟の有無 : 無し

(2) 第2回環境関連法規の遵守状況の確認の結果(2007年4月11日実施)

- 法律違反の有無 : 無し
- 訴訟の有無 : 無し